

情報端末を使う時に気をつけたいこと

情報教育主任

情報化社会の今、子ども達の中にスマートフォンなどデジタル機器が多く普及しています。また学校でも GIGA スクール構想により、1人1台、タブレット端末を活用した学習も進んできています。子ども達は、タブレット端末内にある学習アプリで問題を解いたり、友達と意見交流をしたり一つの学習道具として活用する力を付けてきています。そのような中で、子ども達に必要な学習として「情報モラル教育」があります。「情報モラル」とは、情報化社会の中で上手に生きていくために必要な考え方や態度のことです。小学校では、ネットで知り得た情報を鵜呑みにし、おやみに広めるのではなく、正しく知ろうとすることの大切さや、情報を発信することに注意すべきことなどを学習しています。

子ども達のタブレット端末の中にも、情報モラル教材「Net モラル」というアプリが入っています。中にはデジタル機器との付き合い方を発達段階に応じた内容で説明してくれています。授業で活用していき、これからの情報化社会をたくましく生きていく力を付けていきたいと思えます。また、ご家庭でも情報との付き合い方についてお子様とお話合いいただくと幸いです。



特別支援教育について



『特別支援教育』では、学習や生活で難しさを感じている児童に対して、専門家のアドバイスを受けながらその子に合った支援をすることで、より楽しく学習や生活をできるようになることを目指しています。千松小学校では、困り感があるなど気になるお子さんに、次のような支援を行っています。

支 援 の 方 法	
通常学級	(1) 学級内で配慮をしながらの支援 学習内容の理解や作業に時間がかかる児童については、学級内で児童に配慮した授業を行い、わかりやすい授業を目指します。どの子にも「わかる」「できる」授業を目指し、T・T指導も行っています。
	(2) 通級指導教室（わかば教室） 通常学級での指導に加え、週数回、児童の困り感に応じてのトレーニング（自立活動）を行います。トレーニングをすることで、学級での授業や学校生活全体での困り感を少なくすることを目指します。
特別支援学級	(3) 特別支援学級（ひまわり学級） 児童個々に応じたカリキュラムを組んで指導します。また、実態に応じて通常学級（交流学級）での学習を行います。学校生活や社会生活のために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムもあります。

★特別支援教育に関するご質問、お子さんのことで気になることがありましたら、お気軽に担任もしくは特別支援教育コーディネーターにご相談ください。特別支援教育コーディネーターは、困り感がある児童について保護者や担任から相談を受け、児童の実態を把握したり情報を収集したりして、担任や関係機関と連携し児童の支援についてともに考えます。

特別支援教育コーディネーター

食育について



～食育パワーアップ作戦～

毎年、2・4・6年生を対象として、食育授業を行っています。

○1・2学期では、2年生が「すききらいしないで食べよう」、6年生が「朝ごはんをしっかり食べるための方法について考えよう」について学習しました。6年生はタブレットも活用しながら学習に取り組みました。

○3学期では、4年生を対象に「作ってくださる人に感謝して食べよう」をテーマに、授業を行う予定です。



給食について



～児童の給食委員会の活動より～

毎日、給食終了後に給食委員会の児童による残食調査が行われています。学期ごとに結果を集計し、表彰も行いました。最近の給食で残食が多かったのは、魚を中心とした献立や、野菜・大豆を多く使った献立、そして和食のメニューでした。特に、よくかんで食べないといけな根菜がたくさん使われているメニューなどは残食が目立ちます。味覚の発達のためにも、苦手な食べものもまずは一口ずつでも食べてみるのが大切です。ご家庭でも、好き嫌いしないで食べてみることやよく噛んで食べることの大切さについてお話いただければと思います。



～給食献立について～



人気メニューのひとつである揚げパンが2年半ぶりに登場しました。子どもたちは、この日を楽しみにしていて、とても喜んでいました。きなこ揚げパンは、給食室でコッペパンを丁寧に揚げ、きなこをひとつひとつまぶして作ります。他にも、最近では「白菜と肉だんごのスープ」や「豆腐のかわり揚げ」なども、ひとつひとつ給食室で手作りして作っています。給食の献立は、煮物、炒め物、汁物、揚げ物、和え物、などを組み合わせて作っています。衛生面に気をつけて、安全で安心なおいしい給食が届けられるように心がけています。

